

## 第3回南知多町公共施設再配置計画検討委員会 議事概要

日時 令和5年8月8日(火)

9:30~11:30

場所 南知多町役場 大会議室

### 出席委員

小松 尚	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
原 一雄	愛知県市町村課地域振興室 知多県民事務所担当課長
榊原 英治	知多信用金庫 理事兼総務部長
石垣 菊蔵	公共施設のあり方に係る特別委員会 委員長
榎戸 陵友	公共施設のあり方に係る特別委員会 副委員長
高橋 篤	教育長(再配置計画策定会議副本部長)
高田 順平	副町長(再配置計画策定会議本部長)
山下 陽	南知多町教育委員会
齋藤 恵吾	町民討議会代表
秦 由岐穂	町民討議会代表

### 事務局

大岩 幹治	総務部長
滝本 功	総務部 企画財政課長
相川 久紀	総務部 企画財政課 主幹兼企画政策係長
山下 公大	総務部 企画財政課 企画政策係
松本 聖生	総務部 企画財政課 企画政策係
川口 充康	日本工営都市空間(株) 都市再生部 官民連携課長
西脇 巧	日本工営都市空間(株) 都市再生部 官民連携課
渡邊 菜々子	日本工営都市空間(株) 都市再生部 官民連携課

### 傍聴席

1人

## 1. 町長挨拶

- ・昨年度、再配置検討委員会を2回開催させていただいたが、今年度は3回予定している。
- ・今回は、第2回委員会でのご意見を踏まえ、修正した案を説明させていただく。
- ・9月に5地区ごとの説明会を予定しており、今回は、町民の方々にお見せする案を議論いただくため、非常に重要度が高いと考えている。
- ・30年後どのような姿になっているかお示しさせていただくので、ご意見を賜りたい。

## 2. 委員長挨拶

- ・町長からもあった通り、今年度は本委員会を3回開催する予定である。今回は計画の骨子を決める回となるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 3. 南知多町公共施設再配置計画検討委員会の説明及び委員紹介

- ・事務局より南知多町公共施設再配置検討委員会設置要綱について説明
- ・事務局より委員の改選について説明

## 4. 議題

### (1) スケジュール

#### 【事務局】

- ・資料1 スケジュールについて説明

#### 【委員の主な意見】

- ・意見なし

### (2) 第2回再配置検討委員会を受けての修正内容について

#### 【事務局】

- ・資料2 修正内容について説明

#### 【委員からの主な意見】

- (榊原委員)
  - ・長寿命化改修を行うことにより、目標耐用年数到来時期に建替えを行うということだが、アスベスト調査は終了しているのか。
- (事務局)
  - ・アスベストについては、全公共施設において調査済である。
- (小松委員長)
  - ・新たに施設分類別再配置方針を作成されたとのことだが、少し内容を説明していただきたい。
- (事務局)
  - ・計画書P55をご覧ください。施設分類ごとに、現状と課題をまとめたうえで再配置の方針を定めている。
  - ・例えば町民文化系施設の現状と課題について、各地区に配置されているものの、一部の地区では

機能が重複しているほか、主な利用者が固定され、利用率が低いといった整理や、今後の人口減少に伴い、さらに利用者の減少が想定されるため、適正規模で効率的な施設運営を検討する必要があるといった整理をしている。

- ・それに対する再配置方針として、各地区に1箇所以上配置することを基本とするといった方針や、総合体育館や学校教育施設等との複合化を行うことで多世代交流できる地域拠点として配置するといった方針を定めている。
- ・この方針に基づいて、施設ごとに具体的に再配置の方針を記載している。
- ・前回までは、いきなり再配置プランの結果を示していたため、分かりづらくなっていた。なぜ、このような案が出来たのか、この方針でも分かりにくい点もあるかと思うが、少なくともここまでの検討経緯は示すべきという考えのもと、記載させていただいた。

○ (原委員)

- ・言葉の使い方について、再配置方針に「複合」と「統合」が出てくるが、違いはなにか。

○ (事務局)

- ・同じ機能がくつつく場合は「統合」、新しい機能がくつつく場合は「複合」として、全体で統一しているはずだが、違っている箇所については再度確認させていただきたい。

○ (原委員)

- ・大井公民館と師崎公民館の統合というのは、既存の公民館の規模の増減はなく、そのまま同じ機能を有する2施設が1つになるというニュアンスで、今内海小学校に無い機能が内海小学校に入る場合は複合という認識でよいか。

○ (事務局)

- ・その通りである。

○ (小松委員長)

- ・施設面積の増減は関係なく、単純に機能の関係性だけを示すということである。

○ (齋藤委員)

- ・大井公民館と師崎公民館の統合について、この計画期間内に統合を求めるということではなく、30年後に統合を検討するということでよいか。

○ (事務局)

- ・大井公民館と師崎公民館については、ちょうど計画期間の30年を迎える頃に、目標耐用年数が到来するため、その後どうするかを検討するにあたり、統合を目指すという方向性を示させていただいた。必ず統合するというわけではない。

○ (齋藤委員)

- ・旧大井小学校について、維持管理は令和14年までとし、売却することだが、現在津波と地震の避難所として位置付けられている。廃止後は違う施設が避難所として位置付けられるのか、避難所すら無くなってしまうのか。

○ (事務局)

- ・防災計画上、旧大井小学校は、避難所として使える場合は使用するという位置付けになっている。可能な限り、避難所として使用するという条件のもと売却できないか検討したい。完全に使えなくなる可能性も0ではないが、防災計画上、他施設の避難所で想定人数を賄うことが可能となっ

- ・ ているため、他の施設を検討したり、大きなホテル等と連携したりといったことも考えられる。
- ・ 廃止する施設の代替となる避難所については、今後検討していきたい。

○ (小松委員長)

- ・ 今回、長寿命化改修を行うということだが、長寿命化改修の経費も見込んだ計画に改訂されているという認識でよいか。

○ (事務局)

- ・ その通りである。第7章では長寿命化に必要な経費も見込んで概算経費を試算している。

### (3) 南知多町公共施設再配置計画 (案) について

#### 【事務局】

- ・ 資料3 南知多町公共施設再配置計画 (案) について、第5章公共施設の評価を中心に説明

#### 【委員からの主な意見】

○ (秦委員)

- ・ P4 に公共施設一覧があり、本計画の対象施設は90施設との記載だが、一定の面積以上の施設を抽出しているのではないかと注釈等でその旨を記載してほしい。自分の家の近くにある施設は公共施設ではないのかとってしまう。

○ (事務局)

- ・ ご指摘のとおり、50㎡未満の施設は対象としていないため、注釈等で記載させていただく。

○ (榎戸委員)

- ・ P51 公民館について、大井公民館だけ廃止となっている。いろいろな用途で利用しているため、無くなると大変不便である。なぜ廃止なのか。P50の判定基準の説明および数字の説明をしてほしい。

○ (事務局)

- ・ 判定で使用した数字について今この場でお示しはできないが、機能評価の活用性が低いと判定されている。1日の平均利用者数が、町内の類似施設の平均よりも少ないため、活用性が低いと判定されている。また、機能評価の結果として廃止となっているが、最終的な判定は次の段階で決めることとなる。

○ (榎戸委員)

- ・ まだ確定ではないということで安心した。

○ (榎戸委員)

- ・ P58 をみると、内海小学校、豊浜小学校、みさき小学校の統合を検討しているということだが、いつ、どこに統合されるのか決まっているのか。

○ (事務局)

- ・ 将来的に検討していくという意味での記載であり、具体的には決まっていない。

○ (榎戸委員)

- ・ 篠島小学校は篠島中学校の校舎に移転し、日間賀小学校は日間賀中学校跡地に新設移転するとあ

るが、いつ、どのくらいの費用で実施するのか。

○ (事務局)

- ・時期については、ロードマップをご覧いただきたい。費用については、学校施設を建設する際の概ねの単価を基に、面積を想定して算出している。

○ (榎戸委員)

- ・師崎サービスセンターが令和 16 年に廃止となっている。他地区は残り、師崎地区だけが無くなるように見えるが、なぜか。

○ (事務局)

- ・サービスセンターは、内海と師崎を廃止し、両島は残すという記載をしている。

○ (榎戸委員)

- ・サービスセンターを廃止して、今までやっていたサービスはどうなるのか。

○ (事務局)

- ・サービスセンターは、今後 DX の普及により、訪れる必要がなくなると思われる。マイナンバー制度も始まり、わざわざ訪れなくても住民票が受け取れるような社会になっていくと思われるため、施設としては廃止するという考え方にしている。

○ (榎戸委員)

- ・DX を使いこなせる人は少ないのではないか。大井地区には、小学校も中学校も公民館もサービスセンターも無くなるということだが、このような計画を地区別説明会で見せて、大井地区の皆さんが納得すると思うか。

○ (事務局)

- ・公民館については、この 30 年間の計画で無くすわけではない。集約を検討していくという意味であり、そこはご理解いただきたい。
- ・サービスセンターについては、当然高齢者が今後も増えるが、今は 60 代でもかなりの方がスマートフォンを使用しており、その方々が 10 年後 70 歳になっても引き続き使えると想定される。そういったことも踏まえ、可能な限り DX を普及させたいと思うが、どうしても使えないという方もいらっしゃるのでは、その場合は役場に来ていただく必要があり、その対策は検討する。

○ (榎戸委員)

- ・町のサービスは、どの地区の住民も公平に受けられるべきだと思う。大井地区だけがこのような対応というのはおかしいので、考え直していただきたい。

○ (事務局)

- ・サービスセンターは大井だけでなく、内海も廃止である。利用者数だけの問題ではないかもしれないが、師崎サービスセンターの利用者数はかなり少ないのが現状である。そういった中で、サービスセンターを開設し続けるのではなく、10 年後を目途に廃止する方向性としている。

○ (榎戸委員)

- ・内海サービスセンターは内海小学校と複合とあり、無くなるわけではないのではないか。

○ (事務局)

- ・内海サービスセンターがある内海分館は速やかに取り壊し、一時的に町民会館に移したのち、内海小学校に複合するが、10 年後には複合したサービスセンターも廃止としている。内海も師崎も同時期に廃止という方向性にしている。

- (石垣委員)
  - ・P55 に施設分類別再配置方針が記載されているが、建物の方向性にある、地元移譲の考え方を教えていただきたい。地元移譲した場合の、維持管理や修繕費、取り壊し費の負担はどうか。
- (事務局)
  - ・町としては、地元で負担いただくことを想定している。現状の使われ方として、区で使い倒しているような状況であるため、そのまま引き取っていただくことを想定しているが、必要に応じて協議が必要。
- (秦委員)
  - ・P41 からの各地区の施設の地図は、以前の図から分かりやすくなり、ありがたい。
  - ・P48、P49 の建物評価の結果はイラストもなく、分かりにくい。表に記載があるということはプラスと捉えていいのか、マイナスなのかよく分からない。逆に P51、P52 の図は、あり、なしが明確で分かりやすい一方で、具体的な数字がないから分かりにくい。
  - ・機能評価で用いる指標の数字は、今後も変動するものだから、この結果が確定ではなく、変動も踏まえて検討していくという旨が町民に伝わったほうが良いのではないかと。
- (事務局)
  - ・建物評価については、項目も多く分かりにくいいため、最終的な結果を○△×等で分かりやすく表現したい。
  - ・機能評価については、数字をどこかで記載できないか検討する。
- (秦委員)
  - ・建物評価と機能評価があって、それをまとめたのが施設分類別再配置方針だと思うが、結果のフォーマットが揃っていないため分かりにくいのではないかと。
  - ・建物評価の結果で、文字がグレーだから廃止かと思ったら、残すという方針になっていたため、見方が分かりにくい。
- (事務局)
  - ・ご指摘のとおりである。
- (秦委員)
  - ・P67 内海地区の 30 年後に残す施設について、町民会館はグラウンドだけ残すのに、建物の写真があるため、建物が残ると勘違いしてしまう。グラウンドという新たな名称にして、写真もグラウンドの写真にしたらどうか。
- (事務局)
  - ・ご指摘のとおりである。修正する。
- (小松委員長)
  - ・分かりやすさも大事なので、いろいろと難しい点もあるかもしれないが、工夫いただきたい。
- (齋藤委員)
  - ・計画案で、30 年後のプランが示されているが、10 年ごとのプランは記載されないのか。
- (事務局)
  - ・大枠ではそういった 10 年ごとの考え方をしており、ロードマップには 10 年ごとの前期、中期、後期に分けて記載している。

- (齋藤委員)
  - ・具体的には10年ごとのプランは示されていないということか。それともロードマップを見れば理解できるようになっているのか。
- (事務局)
  - ・ロードマップを見ていただければ分かる。
- (秦委員)
  - ・P24に各地区の公共施設保有状況があり、豊浜地区には全町施設が多いのが特徴という記載があるが、30年後のマップについても、全町施設や観光施設は分かるようにしたらどうか。そういった施設を除いて、各地区で利用する施設だけを見れば、どの地区も減っているなどというのが伝わるのではないか。
  - ・30年後のプランをいきなり見ると、いきなり再編されるのではと勘違いし、驚いてしまう。前期、中期、後期でこのように機能が集約されていくということが視覚的に分かれば良いのではないか。
- (事務局)
  - ・ご指摘のとおり、10年ごとに区切る見せ方も考えられる。現在のマップは消防詰所が多く見づらくなってしまっているので、工夫していきたい。
- (秦委員)
  - ・内海、豊浜の防災センターは、防災に関係する用途にのみ利用というルールに則って、今は防災以外の地域住民の集会等には利用できていない。いずれルールが無くなって、地域住民も利用できるようになるのであれば、そういった段階的な情報も示すと、より地域の人にも納得してもらえないのではないか。
- (事務局)
  - ・ご指摘のとおり、内海、豊浜の防災センターは、今は防災関連の用途でしか利用できないが、今後、地域の人にも使えるようになっていく。これを計画案に記載するかどうかは要検討であるが、地区別説明会の際には口頭で説明したいと思う。
- (小松委員長)
  - ・第7章の概算経費の試算で、長寿命化改修を行うように変更したとのことだが、仮に長寿命化しないで60年で建替えた場合と、長寿命化した場合の概算経費の試算に差はあるのか。両者を比較した結果、長寿命化改修を行う試算にしたという検討経緯が示せると良いのではないか。
- (事務局)
  - ・長寿命化する場合、長寿命化しない場合と比較して約35億の効果がある。
- (榊原委員)
  - ・そこまで大きな効果ではないということか。だとしたら、出来るだけ新しい施設を作るとしたほうが、町民の理解も得やすいのではないか。また、防災のための移転といった内容も入れた方がいいのではないか。
- (事務局)
  - ・35億円で新しい施設ができるわけではない。
- (榊原委員)
  - ・全体で約900億かかるのに対して、効果が35億というのは少ないのではないか。それならば、

新しい施設や防災のための移転ということで理解を得てはどうか、という意味である。

- （事務局）
  - ・効果は35億だが、年間に換算すると約1億であり、町の財政を踏まえると効果は大きい。
- （小松委員長）
  - ・一部分だけ抜き出して記載しているように見えてしまうので、今のような試算経緯も計画書として示したらいいと思う。
- （榊原委員）
  - ・昨年度の地区別説明会の参加者は、各回10数名だったとのことだが、9月の地区別説明会では、どの程度の参加者を想定しているのか。
- （事務局）
  - ・昨年度はたしかに参加者が少なかったが、今回は5地区に拡大し、なるべく地域の方が来やすい時間帯を設定している。おそらく30～50名は来ていただけるのではと想定している。
- （榊原委員）
  - ・本委員会でも、各地区の意見が出てきている。説明会でもいろいろな意見が出ると思うが、30年の計画なので、幅広い年代の方が参加できるようなものにしていただきたい。
- （事務局）
  - ・若い方に参加いただけるよう、町のTwitter等活用していく。
  - ・今回はインパクトが大きい内容になるので、事前に再配置プランマップを全戸配布することで、少しでも理解を深めていただけるのではないかと想定している。
  - ・日程は、地区ごとに参加しやすい日時を考えて決定している。
- （原委員）
  - ・P51の機能評価結果について、日間賀島公民館の判定は廃止だが、P55では機能維持となっている。さらにロードマップを見ると、時期まで示してあり、最終形が見えてくる。地域の方々は、機能評価の結果だけを見て、廃止と勘違いしてしまう可能性があるのでは、説明するときは誤解がないように伝えるといいのではないかと。
  - ・いきなり30年後のプランではなく、順を追って説明していくのも良いのではないかと。
- （事務局）
  - ・ご指摘のとおりである。分かりやすく説明できるようにする。

#### （4）その他

- ・説明、意見ともに無し

以上